

2016 年度支援サービスいずみ事業報告

支援サービスいずみ 管理者 溝口吉郎

【事業総括】

- ① 各ケアマネが自立支援、重度化防止の視点を持ち、マネージメントにあたってきました。特に今年度は地域を意識したマネージメント、多職種連携によるマネージメントを目標としました。多職種で上手く連携できたケースでは、リハビリを含む医療的なニーズの実現が目立っています。全体的にフォーマルなサービスに偏りがあり、今後は「地域」のインフォーマルサービスの活用が課題です。
- ② 10の基本ケアの視点については、環境整備の場面では10の基本ケアに基づいた提案が行えるケースもありました。今後は整えた環境の中で、サービスの中身を事業者とどう作り上げていくのか、サービス担当者会議などの場面を通して提案していくことで進めていきます。
- ③ 昨年度の管理者、及び主任ケアマネの退職の影響は大きく、事業所としてサービスの質の低下があったことは否めません。その中でも各ケアマネが自身の能力の中で「その人らしい生活」を送って頂けるよう事業所内で相談、情報共有しながら支援を進めました。今後も個々の質の向上は重要な課題です。
- ④ 7月の事業所移転当初は大きな問題もなく、スムーズに移転を済ますことが出来ました。時間の経過と共に法人内他事業所との連絡ミス、連絡漏れが目立つようになりました。事業所内で対策を立て、実施中です。法人外事業所では見られないミスが見られていたので、職員の意識を改める取り組みも同時に行い経過を見ています。
- ⑤ 月に127件の請求が達成出来ませんでした。月平均122.7件でした。包括から依頼は頂くものの、お受けできずにお断りすることが目立ちました。事業所内で担当変更する事で対応しましたが、女性ケアマネに空きが出るとすぐに埋まってしまい、再びお断りせざるを得ない状況でした。

【事業計画（方針）とその評価】

- ① 地域から信頼され、選択される取り組みについて
4月～1月の間に29件の新規依頼を受けました。約半数が法人内包括ですが、他包括や元利用者の家族からの依頼もあり、今後も地域から信頼して頂ける事業所でいられる様、ケアマネジメントの質の向上を図ります。
- ② 法令遵守と個人情報保護、情報提供及び開示、説明責任について
昨年度の第三者評価で指摘された苦情申し出窓口に関する情報提供・説明については、契約時に利用者、家族への説明を徹底させました。また、サービス利用中の方達に対しては再度の情報提供を行いました。法令・個人情報保護に対する意識の向上を目的に、事業所内ミーティングの中で勉強会を開催しました。
- ③ 研修を通じた個々、事業所全体の能力向上について
事業所内での研修は法定研修に留まっており、専門性を高める為の外部研修への参加頻度も下がってしまいました。業務の調整を図り、ケアマネジャーの専門性を高める研修への積極的な参加を促します。研修で学んだことをフィードバックする機会を設け、事業所全体のレベルアップに繋

がるよう取り組みます。

【事業実績】

① 利用実績

- ・ 月次ケアプラン数：122.3 件（計画：127 件）

【会 議】

- ① 1/月会議 事業所内研修・勉強会（4 回／年）、事例検討会（2 回/年）
② 1/週ミーティング 情報共有

【委員会】

- ① 各委員会は 1/週のミーティング時に開催
② 特に困難ケースについては事例検討会（事業所内、圏域別）を通して幅広い視点の確保に努めた

【研修実績】

- ① 年間の研修計画にて計画された研修はすべて実施。
② 計画外の研修への参加は
5 月：あすなら 10 の基本ケア講座
10 月：HCR 国際福祉機器展
11 月：居宅管理者研修
1 月：コミュニケーション困難ケース研修

【その他】